
ずっと忘れない

mari

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ずっと忘れない

【コード】
N14240

【作者名】
m a r i

【あらすじ】
サイトで知り合った彼との出会いから別れまで。

（前書き）

初めて書いた小説で読みづらいつころや誤字脱字があると思います。文才がなく思っていること半分も書けてないですが、一応恋愛小説になります。

読んで嫌な気持ちにならなければいいなと願っています。

私は、23歳。

女性ばかりの職場で出会いもなく、仕事は充実してたけど彼氏が欲しかった。

何度か合コンに参加するも好きになれそうな人は現れなかった。

休日になると暇をもてあましていたので、興味のあるSNSを始めることにした。アバターを着せ替えしたり、他の人のアバターを見に行ったり、日記を読んでコメントしたりするうちに仲良くなった人とサイト以外で直接メールのやり取りを始めるようになった。

彼は30歳で長距離トラックのドライバーの仕事をしていた。

私は暇だったけれど、彼は忙しくて会うことのないまま毎日1通か2通のメールのやり取りをしていた。

休みも合わず会えないまま、気付いたら3ヶ月が経っていた。

3ヶ月が経ちしばらくして、彼から母親が病気になったから長距離やめて近くを回ることになったとメールがきた。

お母さんの病気は心配だったけど、やっと会えるかもしれないと思ったら嬉しかった。

メールを始めてから彼からのメールが楽しみになり、時折電話で話が出来ることに幸せを感じていた。いつの間にか会ったこともない彼に私は恋していた。

会えることになったけど、突然彼に仕事が入った。初めて会ったのは彼が仕事中のトラックを止めたコンビニだった。職場の制服を着た彼を見た時は、会えたことが嬉しくてずっとニヤニヤ笑ってしまってた。誰かに見られてたら変な女だったと思う。ドキドキしながら、トラックの中で10分程話したときに、彼の携帯に着信があった。上司からの電話だった。すぐ戻らないといけなくなっただけだった。仕事中だし仕方ないって分かってはいたけど、もっと一緒にいたかった。

その夜仕事終わりの彼からメールがきた。すごい気になる、付き合いたいって。

私も彼のことが気になること、もっと彼のことを知りたいってメールした。

彼は近距離のドライバーになってからも忙しく次に会えたのは4日後で私が昼から仕事がある日だった。

彼の家に行き、彼の写真を見たりお互いのことについて話をした。

彼はアルコールが大好きで昼間から飲んでしまうほどだった。タバコも好きで1日二箱以上吸っていた。

彼と初めてキスした日、強いタバコの味と香りがして、嬉しいよりも苦痛だった。

私はタバコが苦手で付き合うなら止めて欲しいことを伝えた。彼は私のためにタバコを止めてくれた。

彼のお母さんは癌で彼は母親が亡くなってしまっただけじゃなくかとも心配していた。

彼を支えてあげたい、一緒にいてあげたいと思った。彼からも一緒にいて欲しい、ずっと横にいて欲しいと言われた。

母親がもしも亡くなったら結婚して一緒に上京しようと言われた。私は頷いた。

彼は本当にお酒が好きだった。昼間から飲んでしまうほど……。ある日彼は友人宅で飲んだ後前の車に衝突した。飲酒運転で免許停止になることになった。

彼は職場ともトラブルを抱えていて仕事を辞めることになった。

辞めるまでにずっと悩んでてお酒に逃げるようになっていた。

私と会うともう昼間からは飲まない、もう一度トラックに乗りたい、何でもいいから働く、家庭をつくりたい、子どもが欲しいと言っていた。

私も彼のことが大好きだったから彼の言葉を信じたかった。

お酒を止めるっていう彼を支えてあげたかった。

私は彼と会いたかったけど、彼は家のことや仕事のことでも悩んでて元気がないから会えないと会うことを断られるようになってた。落ち込んでるときに一人でいたい気持ちは分かり彼を信じて待つことにした。

でも会いたくて待つと決めてからも気持ちを抑えきれなくて何度も誘ってしまった。

メールも2、3日おきになっていて彼からメールがくるまでは送らないで待とうと思ってた。

最後のメールから1週間が経ち心配になった。
会えない間もやっぱり好きだし、支えてあげたい、彼の思う家庭をつくりたい、迷いながらもこんなに好きになれる人はいないと思っ
てた。

待つのを止めてメールを送った。最近どうしてるかな？落ち着いた
かな？気分転換に出かけてみない？・・・

しばらくして突然電話がなった。

彼のお母さんからだった。彼は私と最後のメールを交わした翌朝心
筋梗塞で突然死したとのこと、今までありがとうございました、結
婚したい人がいるって聞いてました、よくしてくれてありがとうご
ざいましたと涙ながらに言われて私はこちらこそありがとうござい
ましたと言い電話を切った。

生前彼は俺が死んだら誰にも伝えなくて家族だけで見送って欲しい。
お前より先に死にたいと言っていた。彼の思ってた通りに彼の家族
がしてくれたことよかつたって思った。

お母さんが病気でこれ以上精神を悩ませたくないから亡くなった彼
に会いに行くのは止めた。

彼と二度と会えないと思うと本当につらいし、時折会うためには死
ぬしかないかなって思う。

こんなに好きになれる人はもういないんじゃないかなって思う。

本当に好きだったよ。悩んでたけど、無職でもいいから彼が笑ってくれるなら子ども生んであげたかった。私が幸せにしてあげたかった。

ありがとう。本当に好きだったよ。
ずっと忘れない。

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございました。

実話中心です。

サイトで出会った人をここまで好きになるとは実は思ってもいませんでした。

思い返すだけで涙が溢れます。

こんなに好きになれたのは彼だけだと思います。

もつと一緒にいたかったと後悔した恋愛もこれが初めてでした。

若い自分達が死ぬとは全く思ってもいませんでした。一瞬一瞬を大切に今後は生きていきたいと思えます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1424o/>

ずっと忘れない

2010年10月15日01時31分発行